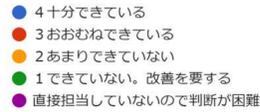
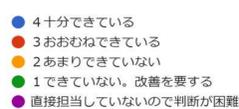


1 社会的・職業的自立に向けて主体的に行動する意欲・力、他者と協働する力を育てる。

2 信頼される学校づくりを推進する。

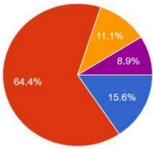
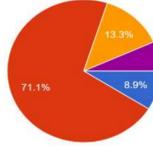
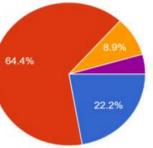
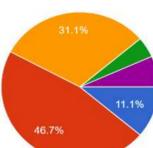
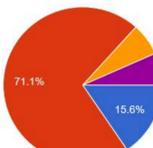


校務分掌	実践目標	具体的な取り組み	評価指標	達成状況	自己評価項目（教員）	成果と今後の課題	
開かれた学校	総務部	学校の取り組みを保護者に紹介し、理解・協力を深める	「西神戸だより」を通じて学校の取り組みを発信する。	「西神戸だより」を年間8回以上の発行をめざす。	11月に今年度第6号を発行、3月中旬に第8号を発行する。 (当初の予定通りである)		発行の目的等は理解されていると思う。さらに良いものにするためには、発行回数・内容・発行の仕方（紙orHP）など見直してもよいのかもしれない。
	情報図書部	家庭や地域への情報発信	学校ホームページ、ブログ等で学校情報の効果的な発信をする。	ホームページの更新及び定期的なブログの掲載ができたか。	学校ブログにて行事や活動の報告、お知らせなどの情報発信を行った。また、ホームページの更新作業を随時行った。		ホームページやブログにおいて活動の報告や情報発信ができた。地域に関する活動など、地域に向けた情報発信が課題である。卒業生の定着支援に関しては、支援機関と連携を取り行うことと、卒業生からの依頼を受けて相談し、進路先との連携を適宜図ることができた。定着状況や、就労の気づき・課題に関しては、在学中に関わりのあった教員とは共有し深めることができた面もあるが、全体的に周知し現役生の指導に活かす部分に関しては、機会を多く持つことができない面があった。
進路指導	進路指導部	卒業生の就労定着を行うと同時に、定着支援からの様々な気づきを在校生への指導に生かす	在学時から支援機関との連携をはかる。卒業時に関係機関との情報共有を実施する。進路先の訪問や卒業生や保護者と連絡をとりサポートを行う。定着に関する情報を学校として共有する機会を持つ。	定着支援の取り組みの中で得た情報を報告し、共有できたか。卒業生の定着状況での気づきを教員の指導に活かされたか。	ハローワーク・しごとサポートと協力し行った。定着指導を一定に行うのではなく、卒業生の現状・困り感に合わせた支援を心掛けた。定着支援から実感できた問題点は、生徒や教員に伝えるようにした。		実習を中心に、生徒との話し合いは適宜行い、担任との共有はその都度行えた面もあると思う。ただ、課題としては、それらを学年全体や授業担当者等に浸透させるのが不十分な面があった。懇談や相談会の回数に関しては、日程的・時間的な余裕を持ち、しっかりと実施することが理想と思われるが、現状では対面での正式な機会を持つことができたとは言いきれない面がある。
	進路指導部	「自分らしく働く」を実現するための取り組みを進める	生徒・保護者との話し合いを適宜行い、体験実習を実施する中で、自己理解を深め働くイメージや働く意欲を培う。実態に応じた進路決定をサポートする。	生徒・保護者との話し合い、実習の準備・目標設定・振り返りが進路決定に活かされたか。	実習準備・実習後に本人・保護者の進路に関する話し合いを行った。実習後表面化した課題を学年教師と進路の教員団で共有する場を設け、進路決定への道をより具体的に意識した。		毎年「危機管理マニュアル」は点検し、改良を重ねていきたい。
危機管理体制の整備	総務部	不審者侵入防止策を作成する	「危機管理マニュアル」の見直し。研修等の実施。	問題点となる事項を見直すことができたか。	不審者対応に関して、10月に見直しを行った。		生徒保健管理委員の仕事の意義を理解し、活動を活性化できた。生徒が環境衛生について理解を深め、生徒保健管理委員が中心となって行動にうつすことができたようになった。今後も生徒と共に社会状況に応じた環境作りに取り組みたい。
	保健部	環境衛生に取り組み、安心安全な教育環境を整える	生徒保健管理委員会を活性化させ、生徒も共に主体的に取り組む。	生徒保健管理委員会と協働し、学校全体で取り組めたか。	生徒保健管理委員会が主体的にポスター掲示や環境管理を呼び掛け実践し、クラス、学年、学校全体で積極的な学校生活環境作りに取り組んだ。		



学校運営	センター的機能	支援研修部	地域と連携を図り、本校としてのセンター的機能の役割を果たす	地域の学校園及び保護者等と組織的な連携体制を作る。	組織的な連携体制を作り、センター的機能が組織的に活用可能な状態にあるか。	主に高等学校に対してのセンター的機能として、生徒・保護者等への教育相談や支援体制の構築補助等を実施した。		成果は高等学校からの教育相談があり、個別の教育支援計画や個別の指導計画についての研修を行った。また、小学校や中学校からの相談も出てきている。課題は実績についてガルーンを通じて周知していく。近隣校への周知としては、外部の教員向けの研修を計画する(夏季休業中)	
教育課程	教育課程	教務部	学習指導要領に基づいた教育計画と授業実践	各教科の目標や内容を実施するため、授業の組み立てを含めて年間指導計画を見直す。	・3観点での目標設定、授業実践および評価ができたか。 ・授業実践につながる年間指導計画を作成することができたか。	生徒たちが、これからの社会で活躍するための「生きる力」を伸ばすことを意識して取り組んだ。		・授業計画をし、どのように行い、どのような効果があがったか絶えず関心を持った実践ができた。教育目標、教育課程を理解し、授業計画がその生徒の学習をどう効果的に進めていくことができているかが課題	
			生徒が主体的に学べる授業づくり	生徒の自立を促すために、外部講師やICT、教材教具を活用した仕掛けづくりをする。	・教員が「主体的な学び」を適切に捉えた授業を提供することができたか。 ・生徒が自ら学ぶ仕掛けづくりができたか。	生徒が書くこと、話すこと、振る舞い、表情など、どれか1つだけで判断するのではなく、生徒をよく観察して複合的に捉えることができた。		発問に対して、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動の取組を行うことができた。より一層、生徒が学ぶことに興味や関心をもった授業展開が思考する。	
課題	生徒支援	支援研修部	適切な実態把握に基づく指導を行う	チームで実態把握を行い、障害特性に基づいた指導・支援について検討していく。	チームで障害特性を確認し、個別の指導計画の項目に基づいた記載ができたか。	チームで個々の障害特性を確認し、個別の指導計画に目標と手立てを設定することができた。		入学時に保護者に検査結果の提供依頼をする。自立活動についてはチェックシートを使って目標設定と評価の結びつきをわかりやすくする。	
			生徒指導	いじめのない集団への取り組み	日常の生徒観察、生活アンケート、いじめ未然防止プログラムでの取り組みを通して、いじめの早期発見、早期対応及び再発防止に取り組む。	いじめ対策委員会でアンケートや事案の検証を行い、学年会や職員会議での情報共有を通して組織的に取り組むことができたか。	第1回のいじめ対策委員会では生活アンケートをもとに、結果の検証を行った。その後、各会議で共通理解を図った。今後も、第2回、第3回を開催する予定である。		アンケートにより、生徒情報を迅速に把握し、生徒対応につなげることができた。いじめ対応時は職員が連携し、支援体制と指導体制を強化していくことが課題である。
			特別活動(生徒指導)	行事、生徒会活動の主体的な取り組み	クラスや学年また委員会活動での話し合いを充実させ、生徒会との連携を密にし、生徒主体の活動を充実させる。	行事や委員会活動のまとめ、生徒会アンケートを通して、生徒の意見を集約し、方向性を定めながら進めることができたか。	複数の行事で、アンケートをGoogle Homeで作成し生徒の意見を集約した。今後の行事を考える上で、結果を踏まえて生徒会や関係部署で話し合いを行う予定である。		アンケートを通して、意見の集約をすることができた。今後は生徒会を中心に行事の活性を図り、生徒の自立意識を高めていきたい。

- 4 十分できている
- 3 おおむねできている
- 2 あまりできていない
- 1 できていない。改善を要する
- 直接担当していないので判断が困難

課題教育	保健教育	保健部	保健教育を通して生徒の健康管理能力を高める	がん教育支援事業モデル校2年目の活動として、全学年でがん教育に取り組み、心身ともに健康に生活していくための知識を習得する。	がん教育をはじめ、保健教育を通して生徒の健康管理能力を向上させられたか。	がん教育講演会の後、各クラスでグループワークを実施し、学習内容を生徒たちで共有した。自分自身や家族、身近な人を守り、よりよい関係を築くための行動変容への基盤作りをする機会を持った。		がん教育を通じて自分の生き方や共生社会といった視点から保健教育を行うことができた。2年目ということもあり、自分の周囲の人との関わりの中で具体的に考えることができてきている。継続して取り組む体制作りと教育課程の検討が必要
	人権教育	人権教育推進委員会	人権意識を高めるための人権教育の推進の土台作りを行う	授業内容等の検討を行い、各授業と人権教育の繋がりを充実させる。	各教科における人権教育課題の取り組み状況調査を通して、各授業と人権教育の繋がりを確認・検討できたか。	各教科における人権教育課題の取り組み状況調査を通して、各授業と人権教育の繋がりを確認し意識することができた。		<p>各教科における人権教育の取り組み状況調査を通して、各授業と人権教育の繋がりを確認し意識することができた。</p> <p>生徒・保護者アンケートにて、人権状況について改善が必要という意見もある。担任・担当だけでなく、学年・学校全体で、安心・安全な学校環境となるように協力・見守りを</p>
	社会参加活動	SC部	実践的な学習を通して学んだことを活かした進路指導を行う	実習や授業で出た課題を振り返る機会を設定する。	一人一人の課題に改善が見られたか。	実習や授業後に各自の課題を確認し、改善に向けた取り組みを考えることはできた。		実践的な学習を通して学んだことを活かした進路指導を行う機会を設け、気付いた自分の長所や課題から卒業後の進路先を考えられた生徒もいた。振り返った内容と授業内の取り組み方がつながらない場合があることが課題である
	キャリア教育		発達段階表をもとに3年間を見通した学習活動を行う	生徒とともにキャリア発達段階を確認し共有する。	発達段階表をもとに授業が展開されたか。	コース等の授業において発達段階表をもとにキャリア教育の達成度を確認することができた。		キャリア発達段階表を用いて生徒自身がキャリア教育の発達度を確認することができた。既存のキャリア発達段階表は生徒自身が確認するには難しい文言もあるため、実態を踏まえた段階表の作成を行うことが課題
	情報教育	情報図書部	これからの時代に即応した情報教育の推進	ICT活用能力を育成し、一人一台端末を活用した学習を可能にする環境作りに取り組む。	一人一台端末を活用した効果的な学習支援ができたか。	生徒一人一台のタブレット端末を配布し、教育用クラウドサービスにより学習支援環境を整備できた。効果検証のためにICT機器利用状況等アンケートを生徒、職員向けに実施する予定である。		一人一台端末による教育用クラウドサービスを利用した学習支援ができ、すべての生徒がiPadを使って資料の閲覧などができた。タブレットの特徴を生かした場所を選ばないICTの利用が課

- 4十分できている
- 3おおむねできている
- 2あまりできていない
- 1できていない。改善を要する
- 直接担当していないので判断が困難

課題教育	学年	1年	<p>集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、自らの課題を明確にし、自ら考え主体的に行動することができる</p>	<p>各授業の中で、目標を意識して取り組み、振り返りの中で自己理解を深める。話し合い活動を充実させ、合意形成を図り、協働して取り組む機会を設定する。</p>	<p>学校生活をより良くするための課題を見出し、解決するための話し合いができたか。協働を意識できる活動を設定し、生徒たちが主体となる活動になっていたか。</p>	<p>目標や評価基準を共有し、生徒の主体的な活動となるよう計画的に授業を行った。また、クラスを基本とした話し合い活動や取り組みが充実した。</p>		<p>特別活動や教科領域の中で、生徒が自らの目標や課題に向き合い、集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ問題を主体的に解決しようとする視点の重要性を教員間で共通理解しながら、話し合い活動や、集団として協働し取り組む機会など意識的に設定した。より生徒が主体的となって学校生活をより良くするための取り組みを計画的に確保することが課題である。</p>
			<p>実践的体験的な学習活動を通して働くことの意義を理解し、職業への興味関心を深め意欲を育てる。また、取り組みや評価を通して自分の能力や適性を知る</p>	<p>職業自立を目指す学習およびトライやるJOBを通して、自分の適性を捉え、実践を評価・改善し表現する力を養い、コース選択を行う。</p>	<p>作業日誌、実習日誌、振り返りシートを活用し、自己評価と課題解決に向けた取り組みが行えたか。将来の職業生活を見据え、進路決定の主体として、コース選択ができたか。</p>	<p>作業日誌、実習日誌、ステップアップシートを活用し、自己評価と課題解決に向けた振り返りを行っている。授業や実習を通して、自分の能力や適性を捉え、将来のイメージが少しずつ具体的なもの</p>		<p>自立活動や専門教科学習などの取り組みを通して、自己評価を行い、自己理解を深め課題解決に向け生徒が考えることができた。コース選択に向けて、生徒自身が主体的に考えられるよう面談やワークシートの取り組み、自己評価シートなど整理し、生徒が見通しを持って取り組むことが</p>
			<p>「自分らしく」働くことを意識し、専門的な職業能力を高める</p>	<p>職業自立を目指す授業において、段階的に座学や実技指導等の授業を行う。</p>	<p>作業日誌や振り返りシートを活用し、課題の発見や課題解決に向けた工夫ができたか。</p>	<p>作業日誌等で自身の目標を明確にすることや振り返りを行うことで、課題の発見、見直しができている。自己理解を深め、「自分らしく」働くことの実現を目指したい。また、学校で培った知識や技能を校外での活動でも発揮できるようになってきた。</p>		<p>に専門的な学びの積み重ねができ、職業能力の向上につながっている。生徒自身も働く力が身についてきたと実感できており、保護者も働く意識が高まっていると感じているようである。今後は進路についてより具体的に考え、「自分らしく働く」を実現するための自己選択・自己決定を支援して</p>
	2年	<p>多様な人々と共生する態度を身につける</p>	<p>話し合い活動や、共同作業の場面を設定し、様々な人と協働する機会を作る。</p>	<p>協働を意識できる活動では、生徒たちが主体となる活動になっていたか。</p>	<p>話し合い活動や共同作業の場面で、建設的な発言や態度が増え、他者と協力しあいながら最終目的としている活動や結論に向かうことができるようになってきている。</p>		<p>香夜祭において、ヘアやテーマでの活動を設定することで、多様な人との協働・共生にはコミュニケーションが不可欠であることに気づき、コミュニケーションをとりながら協力し合う態度が身についてきている。今後は、自己理解を深め、多様な人々の中での自身の存在について意識し、一員としての役割を理解できるようになってもらいたい</p>	
		<p>職業・社会生活を意識した自己決定力の育成と、主体的に自立した生活を営むことができる力を身に付ける</p>	<p>各授業、委員会活動、学校行事、実習などを通して主体的に課題解決に取り組む、社会人前基礎スキルを身に付ける機会を設定する。</p>	<p>作業日誌、実習日誌、振り返りシートを活用し、正確な自己評価と課題解決が行えたか。</p>	<p>授業や学校行事、実習などに主体的に取り組む、丁寧に振り返りを行うことで課題に向き合い克服しようとする姿勢がみられた。卒業後の自立した生活に向け社会人前基礎スキルを身に付ける場を設定することができた。</p>		<p>各授業、委員会活動、学校行事、実習などを通して社会人前基礎スキルを身に付ける機会を設定することができた。生徒一人一人の障害特性の違いから幅は存在するが、作業日誌、実習日誌、振り返りシートを活用し、生徒が主体的に自己評価と課題解決に取り組むことができた。生徒、保護者の結果と比較し、教員のアンケート結果の「あまりできていない」の割合が多いことにも現れているように、多岐にわたる生徒の実態にあった指導、授業作りが今後の課題であると考えている。</p>	
		<p>職業・社会生活を意識した自己決定力の育成と、主体的に自立した生活を営むことができる力を身に付ける</p>	<p>各授業、委員会活動、学校行事、実習などを通して主体的に課題解決に取り組む、社会人前基礎スキルを身に付ける機会を設定する。</p>	<p>作業日誌、実習日誌、振り返りシートを活用し、正確な自己評価と課題解決が行えたか。</p>	<p>授業や学校行事、実習などに主体的に取り組む、丁寧に振り返りを行うことで課題に向き合い克服しようとする姿勢がみられた。卒業後の自立した生活に向け社会人前基礎スキルを身に付ける場を設定することができた。</p>		<p>各授業、委員会活動、学校行事、実習などを通して社会人前基礎スキルを身に付ける機会を設定することができた。生徒一人一人の障害特性の違いから幅は存在するが、作業日誌、実習日誌、振り返りシートを活用し、生徒が主体的に自己評価と課題解決に取り組むことができた。生徒、保護者の結果と比較し、教員のアンケート結果の「あまりできていない」の割合が多いことにも現れているように、多岐にわたる生徒の実態にあった指導、授業作りが今後の課題であると考えている。</p>	
	3年	<p>職業・社会生活を意識した自己決定力の育成と、主体的に自立した生活を営むことができる力を身に付ける</p>	<p>各授業、委員会活動、学校行事、実習などを通して主体的に課題解決に取り組む、社会人前基礎スキルを身に付ける機会を設定する。</p>	<p>作業日誌、実習日誌、振り返りシートを活用し、正確な自己評価と課題解決が行えたか。</p>	<p>授業や学校行事、実習などに主体的に取り組む、丁寧に振り返りを行うことで課題に向き合い克服しようとする姿勢がみられた。卒業後の自立した生活に向け社会人前基礎スキルを身に付ける場を設定することができた。</p>		<p>各授業、委員会活動、学校行事、実習などを通して社会人前基礎スキルを身に付ける機会を設定することができた。生徒一人一人の障害特性の違いから幅は存在するが、作業日誌、実習日誌、振り返りシートを活用し、生徒が主体的に自己評価と課題解決に取り組むことができた。生徒、保護者の結果と比較し、教員のアンケート結果の「あまりできていない」の割合が多いことにも現れているように、多岐にわたる生徒の実態にあった指導、授業作りが今後の課題であると考えている。</p>	